

スタンダードチャータードPLCー2024年度上半期および第2四半期の業績

別段の注記がない限り、すべての数字は特別要因調整後ベースで表示されており、比較の対象は2023年度で報告通貨ベースとしています。特別要因調整後の業績に含まれていない「再編関連コスト」および「その他」の項目の内容は、以下に記載しています。

ビル・ウィンターズグループ最高経営責任者は次のようにコメントしました。

「当行グループは今年度上半期に高い収益を達成し、国際的なコーポレートおよびインベストメントバンキング、また富裕層顧客向け大手ウェルスマネージャーとしての当行グループの営業基盤の価値を証明しました。第2四半期も好調な勢いを維持し、経費管理を引き続き徹底することで、2桁台の増益を達成しました。これにより、特別要因調整後の税引前利益は20%の増益となりました。業績と強固な資本基盤への自信を反映して、当行グループは収益の増加率のガイダンスを上方修正し、2024年に7%を超すと現在見込んでいるほか、15億ドル相当の過去最大の自社株買いを実施します。これにより、2023年度通期決算以降に発表された株主分配は総額で27億ドルになります。」

24年度第2四半期の業績の概要（別段の注記がない限り、比較の対象は23年度第2四半期）

- 営業収益は6%増収の48億ドルとなり、為替変動の影響を除いたベースでは7%の増益となりました。
 - 純金利収入は、主に短期ヘッジのロールオフと財務の最適化活動の成果により、為替変動の影響を除いたベースで6%増の26億ドルとなりました。非純金利収入は、為替変動の影響を除いたベースで9%増の22億ドルとなりました。
 - ウェルスソリューションは、多岐にわたる商品における収益の伸び、および純新規収益と富裕層の新規顧客に関する先行指標の強さに支えられ、為替変動の影響を除いたベースで27%の増収となりました。
 - グローバルバンキングは、パイプラインの実行、それにオリジネーションと販売の増加が収益を押し上げ、為替変動の影響を除いたベースで11%の増収となりました。
 - グローバルマーケットスは、マクロトレーディングで前年の一時的な高収益を再現できず、為替変動の影響を除いたベースで7%の減収となりました。
- 営業費用は2%増の29億ドル、為替変動の影響を除いたベースでは、インフレと事業成長により4%の増加となりました。
- 信用減損コストは7,300万ドルとなりました。これは、最近のランレートに沿ったウェルス&リテール・バンキング部門（WRB）の1億4,600万ドルと、法人営業・インベストメントバンキング部門（CIB）およびセントラル&その他に計上されていたソブリン格付けの引き上げの影響による6,600万ドル相当の戻入れなどによるものです。
 - ハイリスク・アセットは前四半期比ほぼ横ばいの85億ドルとなりました。
 - 信用損失率（LLR）は前年から4bp、前四半期から11bp低下して12bpとなりました。
- 為替変動の影響を除いたベースでの特別要因調整後の税引前利益は15%増益の18億ドル、報告ベースの税引前利益は5%増益の16億ドルとなりました。
- 再編関連コストおよびその他の項目は2億5,000万ドルで、うち1億7,400万ドルは主にジンバブエ事業の売却に関する為替換算差損の準備金から損益への組替調整に関連するものです（純有形固定資産額や自己資本比率には影響はありません）。
- 当行グループのバランスシートは引き続き健全で流動性が高く、十分に分散されています。
 - 顧客向け貸付金その他の金銭債権は、自己勘定残高のランオフと為替換算により、24年3月31日から80億ドル（3%）減の2,760億ドル、特別要因調整後ベースでは10億ドルの増加となりました。CIBにおける伸びの継続が、WRBにおける住宅ローンの減少を打ち消しました。
 - 顧客預金の残高は24年3月31日から90億ドル（2%）増の4,680億ドルとなりました。WRBの定期預金とCIBの当座／貯蓄預金が伸びました。
- リスク・アセット（RWA）は24年3月31日から100億ドル（4%）減の2,420億ドルとなりました。
 - 信用リスク・アセットは80億ドル減少しました。ソブリン格付けの引き上げを含む資産の質の向上、最適化イニシアチブ、それに為替取引が減少の原因となりました。
 - 市場リスク・アセットは、市場活動の縮小によるリスク低下を反映し、20億ドル減少しました。
- 当行グループは引き続き盤石な自己資本を有しています。
 - 普通株式等Tier1（CET1）比率（%）は目標レンジの13～14%を上回る14.6%（24年3月31日時点では13.6%）となりました。
 - 近く開始される15億ドル相当の自社株買いにより、CET1比率は約60bp低下すると予想されます。
 - 中間普通配当は50%引き上げられ、1株当たり9セントとなりました（総額で2億3,000万ドル）。
- 1株当たり純有形固定資産額は24年3月31日から54セント増加して14.44ドルとなりました。
- 有形資本利益率（RoTE）は、1ポイント上昇して12.9%になっています。

24 年度上半期の業績の概要（別段の注記がない限り、比較の対象は 23 年度上半期）

- 営業収益は11%増収の100億ドル、為替変動の影響を除いたベースでは13%の増収、顕著な収益項目を除くと10%の増収となりました。
 - 純金利収入は為替変動の影響を除いたベースで5%増の50億ドルになりました。非純金利収入は為替変動の影響を除いたベースで22%増の50億ドル、特に顕著であった2件の収益項目を除くと16%増となりました。
 - ウェルスソリューションは為替変動の影響を除いたベースで25%の増収で、過去最高の業績となりました。純新規収入は2倍超の130億ドル、ウェルスの運用資産残高は23年12月31日から12%増の1,350億ドルになりました。
 - グローバルバンキングは、為替変動の影響を除いたベースで14%の増収となりました。強力なパイプラインの実行によるオリジネーションと販売の増加が収益を押し上げました。
 - グローバルマーケットは為替変動の影響を除いたベースで5%の増収となりました。新規収益が7%の増収となりました。クレジットトレーディングとコモディティが2桁の大幅な増収となり、FXと金利の一時的な減収を相殺しました。
 - エジプトの為替ポジションの再評価とガーナのハイパーインフレーションに關係して計上された2億5,800万ドルが、特に顕著な収益項目となりました。
- 営業費用は3%増の57億ドル、為替変動の影響を除いたベースで5%増となりました。
 - 為替変動の影響を除いたベースでは収益の増加率は費用の増加率を8%上回り、費用収益比率は4%改善し57%となりました。
- 信用減損コストは7,700万ドル増加し2億4,900万ドルとなりました。前年度上半期におけるマネジメント判断による調整額の戻入れにより、WRBにおける信用減損コストが正常化しました。
- その他の減損コストは1億4,300万ドルでした。このほとんどはソフトウェア資産の償却に關連するもので、自己資本比率への影響はありません。
- 為替変動の影響を除いたベースでの特別要因調整後の税引前利益は21%増益の40億ドル、報告ベースの税引前利益は6%増益の35億ドルとなりました。
- 再編関連コストは1億5,000万ドル、その他の項目は2億8,900万ドルでした。この大半は、韓国株式に連動した有価証券ポートフォリオに關する為替差損の組替えおよび引当金の繰入れでした。
- 税金は11億ドル、特別要因調整後の実効税率は30.1%となりました。
- 当行グループのバランスシートは引き続き健全で流動性が高く、十分に分散されています。
 - 顧客向け貸付金その他の金銭債権は23年12月31日から110億ドル（4%）減の2,760億ドル、特別要因調整後ベースでは50億ドル（2%）の増加となりました。
 - 顧客預金の残高は23年12月31日からほぼ横ばいの4,680億ドルとなりました。
 - 流動性カバレッジ・レシオは148%（23年12月31日時点では145%）となっています。
- 特別要因調整後ベースの1株当たり利益（EPS）は23.5セント（31%）増加して98.5セント、報告ベースのEPSは7.7セント（10%）増加して83.3セントになりました。
- 有形資本利益率（RoTE）は、2ポイント上昇して14.0%に達しました。

24 年度上半期における 2024~2026 年の戦略的アクションの進捗状況（別段の記載がない場合）

- CIBにおける高収益事業の成長を推進しています。クロスボーダー（ネットワーク）収益は前年同期比で12%増（金利影響を除く）となりました。
- WRBにおける富裕層顧客事業をさらに強化しました。24年度上半期の純資金流入は230億ドル（23年度上半期は130億ドル）となりました。
- SC Venturesでは黒字を確保し、収益の伸びを拡大しています。Moxには約60万人、Trustiには約80万人の顧客がいます。
- 「Fit for Growth」プログラムを通じてオペレーションのレバレッジを改善しています。200件を超すプロジェクトを対象に実施しています。
- 大幅な株主分配を実施しています。23年度以降に発表された分配額は合計27億ドルになります。

その他の進捗状況

- サステナビリティ：サステナブル・ファイナンスの収益は前年同期比18%の増収となりました。21年1月1日以降、サステナブル・ファイナンスで1,050億ドルを超す資金を調達しています。

ガイダンス

2024年度の収益ガイダンスを上方修正しますが、その他のガイダンスの要点はすべて据え置きます。

- 営業収益は、為替変動の影響を除いたベースで、特に顕著な2つの収益項目を除き、2024年度に7%を超す増益となると予想します。
- 為替変動の影響を除いたベースで、2024年度に100億～102億5,000万ドルの純金利収入を達成する見通しです。
- 2024年度は英国銀行税を除き、為替変動の影響を除いたベースで、収益の増加率は費用の増加率を上回ると予想します。
- 2024年度の特別要因調整後ベースの顧客向け貸付金その他の金銭債権およびリスク・アセットの増加率は、1桁台前半になると予想します。
- 信用損失率は30bpから35bpの範囲のサイクルを通じて、過去の水準に向けて正常化していくとの予想を維持します。
- CET1比率が13～14%の目標範囲内にとどまるよう、引き続き積極的に管理します。
- 一株当たり年間配当を継続的に増配します。
- 有形資本利益率（RoTE）は2026年度に12%達成を目指して、10%から着実に上昇し、以後も上昇を続けると予想します。

他の通貨を指すと明記されている場合を除き、本資料内の「ドル」という語または「\$」の記号は米国ドルを指し、「セント」という語または「c」の記号は1ドルの1/100を意味します。

本資料内で文脈上別段の解釈が必要な場合を除き、「中国」は中華人民共和国を指し、本資料においてのみ、香港特別行政区（香港）、マカオ特別行政区（マカオ）および台湾は含まれません。「韓国」は大韓民国を指します。

本資料内の表において、空欄は数値が開示されていないこと、ダッシュは数値がゼロであること、「nm」は数値が僅少であることを示します。

スタンダードチャータード PLC はイングランドおよびウェールズにおいて設立された有限責任会社であり、ロンドンに本社を置きます。当行グループの本社は、ガバナンスおよび規制基準に関する助言を提供しています。スタンダードチャータード PLC の株式の銘柄コードは、HKSE 02888 および LSE STAN.LN です。

【参考訳に関するご留意事項】 この資料は、スタンダードチャータード銀行東京支店（以下、「当行」と言います。）が、お客様の便宜のために、英語その他の言語の情報を日本語に翻訳し、提供させていただいております。従いまして、当行は、この資料に記載された情報につきまして、独自の検証を行っておりません。専門用語のみならず、翻訳の正確性も保証しておりません。英文資料が正文であり、英文資料と翻訳との間で齟齬がある場合には、英文資料が全てにおいて優先します。

損益計算書

	24年度上半期 (百万ドル)	23年度上半期 (百万ドル)	増減 ¹ %
特別要因調整後ベースの業績			
営業収益	9,958	8,951	11
営業費用	(5,673)	(5,504)	(3)
信用減損	(249)	(172)	(45)
その他減損費用	(143)	(63)	(127)
関連会社利益	64	94	(32)
税引前利益	3,957	3,306	20
普通株主に帰すべき利益 ²	2,567	2,128	21
普通株主有形資本利益率 (%)	14.0	12.0	200bps
費用収益比率 (%)	57.0	61.5	453bps
報告ベースの業績			
営業収益	9,791	9,127	7
営業費用	(6,056)	(5,668)	(7)
信用減損	(240)	(161)	(49)
のれんおよびその他の減損	(147)	(77)	(91)
関連会社利益	144	102	41
税引前利益	3,492	3,323	5
税金	(1,123)	(938)	(20)
当期利益	2,369	2,385	(1)
親会社株主に帰すべき利益	2,378	2,388	0
普通株主に帰すべき利益 ²	2,169	2,145	1
普通株主有形資本利益率 (%)	11.9	11.9	—
費用収益比率 (%)	61.9	62.1	20bps
純資金利ざや (%) (調整後) ⁶	1.85	1.67	18bps

	30.06.24 (百万ドル)	31.12.23 (百万ドル)	増減 ¹ %
バランスシートと資本			
総資産	835,427	822,844	2
総資本	51,327	50,353	2
普通株主に帰すべき平均有形株主資本 ²	36,529	36,098	1
顧客向け貸付金その他の金銭債権	275,896	286,975	(4)
顧客口座	468,157	469,418	—
リスク・アセット	241,926	244,151	(1)
総自己資本	53,569	51,741	4
総自己資本比率 (%)	22.1	21.2	90bps
普通株式等Tier 1	35,418	34,314	3
普通株式等Tier 1比率 (%)	14.6	14.1	50bps
預貸率 (%) ³	52.6	53.3	(70)bps
流動性カバレッジ率 (%)	148	145	300bps
英国基準のレバレッジ率 (%)	4.8	4.7	10bps

	30.06.24 セント	30.06.23 セント	増減 ¹ セント
普通株式1株当たりの情報			
1株当たり利益	98.5	75.0	23.5
— 特別要因調整後ベース ⁴			
— 報告ベース	83.3	75.6	7.7
1株当たり純資産額 ⁵	1,683	1,513	170
1株当たり純有形固定資産額 ⁵	1,444	1,302	142
期末時点の普通株式数 (百万株)	2,550	2,797	(9)

- 資産、負債、リスク・アセット以外については、「増減」は改善/ (悪化) を示します。総自己資本比率 (%)、普通株式等Tier 1比率 (%)、純資金利ざや (%)、預貸率 (%)、流動性カバレッジ率 (%)、英国基準のレバレッジ率 (%) については、増減は増減率ではなく、二時点間のパーセンテージ・ポイントの差で示されています。1株当たり利益、1株当たり純資産額、1株当たり純有形固定資産額については、増減は増減率ではなく、二時点間のセントの差で示されています。
- 「普通株主に帰すべき利益 (損失)」は、非累積償還優先株、および株式に分類されるその他Tier1 (AT1) 資本証券の保有者に対する支払配当を控除した後の数値です。
- 本比率の算出にあたっては、「顧客向け貸付金その他の金銭債権」の総額には、リバース・レボ契約等担保付貸出金、およびストレス時に返済可能と確認された中央銀行に保有された承認済みの残高を含んでおらず、一方で、損益を通じて公正価値 (FVTPL) で保有される顧客向け貸付金その他の金銭債権を含みます。総顧客口座数には、FVTPLで保有される顧客口座を含みます。
- 特別要因調整後ベースまたは報告ベースの利益を基本的加重平均株式数で割った数値です。
- 期末時点の純資産額、純有形固定資産額および株式数により算出した数値です。
- 「純資金利ざや」は調整後の純金利息収入を平均利付資産額で割り、年率換算した数値です。
- 本中間財務報告書における「報告ベースの業績」とは、英国において採用されているIASおよびEU IFRSに基づいて報告される金額を意味します。過年度においては、「報告ベースの業績」は「法定ベースの業績」と記載していました。